

東光原

熊本大学附属図書館報

Kumamoto University Library Bulletin, No.11, June 1995

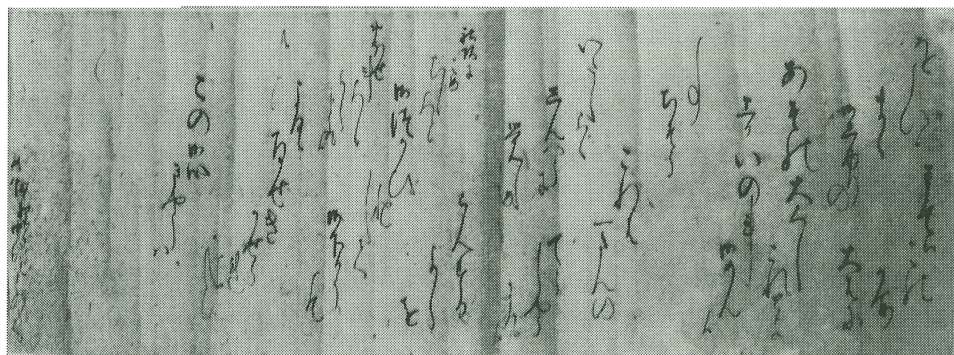
● 如飢似渴 —私の図書館雑感—

● 附属図書館の直面する諸課題について

● 「永松文庫」について

シリーズ熊本大学附属図書館蔵特殊資料紹介10

● 重要文化財 阿蘇家文書(34巻36冊)



[C] 後奈良良天皇女房奉書

〔端裏書〕
〔仰 天文十三九廿三〕

(6) をよひ候 (5) さてハこの 御所
御しゆりの 大はに
(1) あその大くし これとよ 御めん
(2) 上かいの事

(7) 事 ちそう 候
(3) これは 一たんの
(8) いたし候 ハ、 (4) てう
しんへうに 覚しめし にて候
社頭に (9) 候ハんする よし
まいらせ候へと (10) 御つかひ を

(14) おほせ事候へく候 御下かう候
よし申せとて 候
(11) よく おほせ
かしく きかせられ 候へく候
(12) この御心 きやうハ

(切封) 日野中納言とのへ

如飢似渴—私の図書館雑感—

葉 陵 陵

昨年十月に着任以来、いくつかのインタビューを受け、又、短文を書いてきましたので、あまり書くこともありませんが、今回は私の感じた中国と外国の図書館について雑感を書いてみたいと思います。

文化大革命が終った翌年の1977年の末ごろ、中国では、大学受験制度が12年ぶりに復活しました。そのお蔭で、私も含めて大勢の若者が、大学で勉強する夢をかなえられました。その年代の中国の大学生は、やっと手に入れたこの貴重な勉学のチャンスを何よりも有難いものと思い、しかも「十年動乱」によってむだに過ごした青春を一日も早く取り戻そうと考えていましたので、まるで「如飢似渴」（飢えて渴いたものが食物と水に飛びかかる）のように、勉強しました。大学で私ははじめて日本語と出会い、同じく漢字を使っている日本語に親しみと面白さを感じて、第一外国語として選択しました。ところが、当時、すべての伝統文化と外国文化を排斥した文革の直後なので、日本語の教科書も販売されていませんでした。大学図書館の埃まみれの一隅から見つけた文革以前の教科書を同級生皆で謄写版で印刷したことを、いまでも思い出します。大学図書館の閲覧室や自習室は、いつでも満杯でした。ちょっと人より遅く入室すると、読みたい雑誌や本が先に他の人に借りられてしまい、座席もなくなりますので、開館前に、入口には既に長い行列ができていることもめずらしい光景ではありませんでした。それから十数年たち、90年代の中国の大学生も時代の流れと共に、いろいろなことに多忙となりました。試験期間以外はガラガラの母校の閲覧室を見た時、何となく寂しい感じがしたというのも偽らざる気持ちです。

1987年、既に法学の修士課程を修了し、法学部の専任講師となった私は、中央大学日本比較法研究所の客員研究員として、来日することができました。そして、専門分野の研究と日本語の勉強を一層深めるために、1988年には、大学院博士課程に入学し、1994年には法学博士号を取得しました。この留学生活では、様々な図書館—国会図書館から各大学の図書館、住んでいた地域の市立、区立図書館まで、ずっとお世話になってきました。私にとって、日本の図書館は殆どの図書が開架式になっていて、必要なものがすぐに利用できるため、本当に有り難いものでした。

1990年に、私は機会があり、アメリカ、カナダの諸大学へ資料調査に参りました。大学の学術レベルを判

断するには、その大学の図書館を見ればわかるといわれますが、私はボストンに滞在していた間に、これを実感することができました。その時、私はよくハーバード大学の燕京図書館（Harvard-Yenching Library）に通いました。ハーバード大学には、内外あわせてなんと九八の図書館があります。北京を意味する燕京という図書館やフェアバンク東亜研究センター図書館（Fairbank Center for East Asian Research Library）はその中の二つであり、専ら中国語、日本語及び朝鮮語などの東アジア関係の書籍や雑誌、新聞が収蔵されています。私は燕京における中国語の蔵書の豊富さと多様さに、とにかく驚きました。中国大陸、台湾、香港は言うに及ばず、東南アジア諸国から出版されたものまで、社会科学関係のありとあらゆる中国語の書物が収集されているようです。例えば、既に中国国内でも見られない希覯本や禁書、そして文革時代の宣伝ビラまで蒐集されています。そこで、複雑な中国の事情をより客観的に観察し、しかも公正に分析するには、中国本土や台湾、香港のどこよりも、このアメリカのほうが最も適切な場所ではないかと思われ、なぜ世界各国の中国学研究者がここを訪ねてくるのか、その理由もよくわかりました。私も、国外に出ることがなかったら、目にすることはなかった様々な本と出会いました。

アメリカとカナダでは、大学の図書館だけでなく、普通の公立図書館、例えば、ボストン市立図書館、オタワ市立図書館などにも、英語以外の、様々な言語の書籍や資料が揃っていました。移民の国の文化における多元性と包括性を実感させられるばかりでなく、非英語圏出身の我々にとっては、親しみのもてる場所ともなっています。

中国では、図書館事業も一種の情報サービス業であるという観念がまだ十分に認識されていないせいか、図書館の役割は閲覧者のための「情報流通センター」というよりは、むしろ書物を収蔵するための「蔵書館」という考えにとどまっている傾向があるので、閲覧者にとって、まだ利用しやすい図書館とは言えない状態です。したがって、中国の図書館は、アメリカや日本などの図書館のあり方を学び、「機能転換」のような改革を行う必要があると、私は思っています。

（いえ りんりん 法学部助教授 行政法）

附属図書館の直面する諸課題について

青 山 弘

今日、大学はその生き残りをかけて大学改革に取組み、教育研究の活性化や国際化・生涯学習社会への対応に努めている。

このような状況の中で、上記の諸課題についての直接的な取組みと平行して、大学が提供する教育研究条件としての基盤整備の差異化がとりわけ重要となってきた。附属図書館の整備は、基盤整備差異化の最重要事項の一つと思われる。

以下では、本学の教育研究条件の整備としての附属図書館整備の諸課題について説明し、全学のご理解、ご支援を賜わる一助になればと思う次第である。

附属図書館の整備としては、大きく教育研究資料の整備、教育研究等への情報提供、そして施設設備の整備の3点が考えられる。

教育研究資料の整備という点では、本学の誇る、重要文化財を含む古文書類や旧五高蔵書を有するが、最先端の学術研究や基礎的な教育のための資料については、どのような配置や利用形態をとれば、限られた予算の範囲内で、大学全体としての教育研究資料を一層充実させられるか、まだ改善の余地があるように思われる。

幸い全学のご理解を得て、昨年度から研究用資料購入費が認められたが、このような大型の共同利用資料の収集の拡大とともに、既存資料の共同利用体制の強化も必要となるであろう。

また国際化対応として、留学生や外国人研究者のための資料面の整備が求められるよう。

次に教育研究資料の提供についてであるが、学内LANが整備された現在、CD-ROM等の形態によって提供している電子化情報のネットワーク化が最も優先されなければならないであろう。例えば、現在医学分館、薬学部分館においてスタンドアロンでサービスしているMEDLINE（生命科学分野の索引・抄録情報データベース）の利用は活発であるが、これをネットワークから利用したいという要望はきわめて強い。

電子化情報の提供の点では、既に学内LANによってサービスしている蔵書のオンライン目録情報検索システム（OPAC＝オーパック）については、電算化以後のデータしか入力されていないため、電算化以前のデータの遡及入力を行い、情報環境を整備することも必要であろう。

また、大学の情報発信という観点からは、このOPACや、総合情報処理センターの協力を得て、平成元年度から学内に公開している「熊本大学研究者情報データベース検索システム（KURES）」とともに、前述の阿蘇家文書や細川家北岡文庫等の古文書を、原文献保存と利用とを共存させるため、電子化し、データベースの形で広くインターネットに公開していくことも必要であろう。

このように提供情報の電子化が推進されれば、従来、図書館に足を運ばなければならなかった情報の検索や、さらには文献の入手まで、コンピュータネットワークを介して研究室で居ながらにして可能となり、研究者の情報環境は格段に改善されるであろう。

さらに、情報電子化の推進だけでなく、文献情報の提供面で問題があるならば、その改善を図ることも必要であろう。

最後に施設設備の整備についてであるが、附属図書館中央館の建物は昭和48年竣工で、建築以来、22年が経過し、蔵書収容能力は既に限界を越えたため、増築を概算要求中である。増築部分については、単に収容能力増強だけでなく、電子時代にふさわしい機能をふんだんに盛り込んだ、斬新な図書館にできればと願っている。医学部分館は、5月1日から24時間開館を開始したが、この増築部分も24時間開館可能な建物とし、併せて研究支援体制の飛躍を目指すとともに、大学の地域開放をさらに推進する一大拠点ともなればと思う。

以上、この4月1日着任してから現段階で把握できる範囲内での取りまとめに過ぎないが、学術審議会から『大学図書館機能の強化・高度化の推進について』報告がなされている今日、さまざまな課題について、図書館委員会の先生方を始め、全学の方々とご相談しながら着実に前進できれば幸いである。

（あおやま ひろし 事務部長）

「永松文庫」について

栗 崎 了

「永松文庫」は、平成3年に亡くなられた永松譲一先生の蔵書の中から選び出して寄贈していただいたもので、主として欧文の図書（ドイツ文学とその周辺のもの）からなる約2000冊のコレクションである。

永松先生は、昭和6年に東京帝国大学を卒業、その後も引き続き大学院で研鑽を積まれ、昭和10年に新潟高等学校の教授に就任、昭和18年に先生の母校でもある第五高等学校の教授として熊本に赴任された。熊本大学発足（昭和24年）後は、法文学部の教授として活躍され、昭和47年に停年により退官された。退官後は、昭和57年まで、埼玉医科大学教授を務められた。

先生は熊本大学では20数年働かれたことになる。法文学部長や評議員等の要職に就かれ、草創期の熊本大学の拡充発展に貢献された。昭和47年には、法文学部に大学院文学研究科と法学研究科が設置されたが、その時はその設置委員会の委員長として活躍された。それを実現に導かれた先生の御功績は特筆に値する。

先生の御専門はドイツ文学である。独和辞典やゲーテの研究で著名な木村謹治先生のことをよく話しておられた。おそらく先生は木村先生の愛弟子の一人であったのではないかと思う。ゲーテについては、特にその青年時代に精しく、先生の著書は『ロココ・ゲーテ覚え書』である。また、第五高等学校に赴任された翌年に、独文学史の名著の一つであるヘルマン・アウグスト・コルフの『ゲーテ時代の精神』の第一部の翻訳を、桜井書店から出版された。このような研究の傍ら、良寛、玉山、豪潮などの書を愛され、豪潮については著書がある。また、亡くなる前には、県立美術館協議会員を務めておられた。

「永松文庫」は、大きく四つに分類することが出来る。A)ゲーテに関するもの〔約290点、約700冊〕。B)ドイツ哲学・文学に関するもの〔約900冊〕。C)文学史、文芸学、文化史等〔約170冊〕。D)その他。輪郭をつかんでいただくために点数と冊数も挙げたが、概数である。A)とB)については、もう少し詳しく述べたい。



永松教授：昭和56年11月22日
皇居北の丸公園にて。山岸正弥氏撮影

A)ゲーテに関するもの ゲーテ研究者である先生が60数年間に集められたゲーテ・コレクションである。一応便宜的に次のように分類してみた。

- 1)全集〔11点、330冊〕
- 2)ロココ・ゲーテ（若きゲーテ）〔4点、16冊〕
- 3)書簡〔22点、33冊〕
- 4)談話、対話〔25点、45冊〕
- 5)作品（単行本）〔38点、44冊〕
- 6)レクラム版〔20点、22冊〕
- 7)年表・年譜〔5点、9冊〕
- 8)ゲーテ研究（モノグラフィー）〔121点、130冊〕
- 9)辞書、ハンドブック〔6点、10冊+26分冊〕
- 10)年鑑
- 11)雑誌（記念特輯号）〔4点、6冊〕
- 12)和書〔31点、47冊〕（この数字も概数である。）

モノグラフィーを見てみよう。日本ばかりではなく、ドイツ本国でも、ゲーテに関して、このように多くのモノグラフィーを個人で集めた人は、おそらく数えるほどしかいないであろう。また、全集を見ると、ワイマル版（Weimarer Ausgabe、復刻版）からまだ刊行中のミュンヘン版（Münchener-Ausgabe）に至るまで、10点ほどの版が揃っている。祝祭記念版（Festausgabe、1926～27）やヴィルヘルム・エルンスト大公版（Grossherzog Wilhelm Ernst Ausgabe、1920～23）も珍しい。40巻からなるコッタ書店の記念版（Jubiläums-Ausgabe、1902～12）は、索引が完備していて便利なので、私もよく利用した。非常に貴重な全集だと思うが、復刻版はない。（文学部の独語独文学研究室所蔵のこの版には欠本がある。惜しいことに1巻欠けている。）

熊本大学文学部の独語独文学研究室所蔵のゲーテに関する文献も、大部分は永松先生が在職中に集められたものであるが、相当な数に達する。ゲーテを本格的に研究するために必要とするものは大抵揃えてあると言ってよいのではないだろうか。予備知識がなければ使いこなせないようなものもある。日本では有数のゲーテ・コレクションの中に入るのはないかと思う。ワイマル版は革装丁の原本である。その他にも、ゲーテの生前に出版され、ゲーテ自身が編集に携わった版が二三ある。このような研究室のコレクションに「永松文庫」

の上述の図書が加わると、熊本大学のゲーテに関する文献はさらに完備する。調べたわけではなく、私の推測にしか過ぎないが、日本一の、あるいは世界的にも注目に値するゲーテ・コレクションになるのではないであろうか。このコレクションが今後もさらに補充完備されることを願っている。

B) ドイツ哲学・文学に関するもの このコレクションは、古い時代の作品も二三あるが、大部分は18世紀から現代までの約80人の作家や哲学者の全集や単行本、約30点の時代別やジャンル別に編まれた叢書・選集、約30人の哲学者や作家に関するモノグラフィーなどから成り立っている。

この中に入っているものの中で、私がそのうちゆっくり手に取って見たいと思っているものに、Walter Harich編のE. T. A. ホフマンの全集がある。

ゲーテ時代（18世紀後半から19世紀前半）の研究をしている方は、この中にさらにいくつも利用したいと思う本を見出されることであろう。

「永松文庫」の中の珍しいものとしては、戦後の詩人ギュンター・アイヒ(1907～1972)の手書きの詩『日本の木版画』(Japanischer Holzschnitt)がある。彼は昭和38年来日、熊本日独協会の招待を受けて、四国と阿蘇を経由して熊本まで足をのばし、自作の詩をいくつか朗読している。この手書きの詩は、その折に、作者から先生に感謝の印として贈られたものである。

永松先生は、また、外国人による日本・東洋研究の

成果、外国人の日本についての手記、内外の日本文化論や比較文化論などに興味をもっておられた。そして、先生が集めておられた本がかなりあるので、これもこの文庫に入れていただいた。最近では世界の各地から熊本大学に留学し、日本や東洋の研究をしている人がかなりいる。そのような方々のお役に立つかもしれないとも考えた。利用して下されば幸いである。

永松先生が亡くなられてから間もなく、御令室のヤス子様から先生の蔵書を熊本大学に寄贈したいとお申し出があった。それから半年ほど経ってから、教養部の深堀建二郎氏の協力を得て、休暇中などに暇を見つけ、図書を選択し、リスト作成に取り掛かった。さらに、それをもとにして、仕事の合間に私がアルファベット順に配列したり、分類したりして、どうにか定年前に目録を仕上げることができた。先生が亡くなってから、早いもので、もう3年8ヶ月になる。遅くなったが、先生の愛された蔵書の主要なものが死蔵や散逸を免れ、「永松文庫」として多くの人の利用に供されるようになった。亡くなった先生も喜んでおられるのではないかと思う。

これが実現するまで、前附属図書館長の植村啓治郎教授、田尻英雄前課長、石井保廣課長、草野隆夫専門員、梅尾勝征係長、その他多くの方にお世話になった。心から御礼を申し上げたい。

(くりさき さとる 前文学部教授 独文学)

シリーズ熊本大学附属図書館蔵特殊資料紹介10

重要文化財 阿蘇家文書(34巻36冊)

工藤敬一

今回紹介するのは、天文13年(1544)矢部浜の館に居た大宮司阿蘇惟豊が、従三位に叙せられた際の後奈良天皇女房奉書および一連の関係文書である。惟豊は、兄惟長が守護家菊池氏に迎えられたため、永正4年(1507)大宮司となった。その後菊池家々督を捨て、大宮司復帰を図る惟長に一時矢部を逐われたが、日向の甲斐氏の援けを得て復活し、大永、天文年間の30余年にわたり、大宮司の地位を保った。

天文13年9月16日惟豊は、禁裏修理料を献上した功によって、正四位下から従三位に昇叙された。〔A〕は上階のことを告げる後奈良天皇綸旨、〔B〕は辞令に当

る口宣案である。ともに天皇の秘書局である蔵人所(頭人は広橋国光)から出されたもので宿紙(薄墨紙)が用いられている。後奈良天皇は、勅使として日野中納言(烏丸光康)に〔C〕(表紙)の女房奉書などを持って使者として惟豊のもとに下向し、上階のことを伝達するとともに、自筆の般若心経を阿蘇社の社頭に納めるよう命じた。この時代、天皇の意志はしばしば勾当内侍の女房奉書の形で伝えられた。女房奉書は多くこのような散し書きで書かれた。そして〔B〕に見える上卿(担当公卿)の広橋兼秀が、これに添えて惟豊に遣した書状が〔D〕である。これらの文書は一括

して勅使によって惟豊にとどけられたものとみられる。勅使光康は10月に浜の館に着き、11月13日には、大内義隆が勅使下向を祝する書状を惟豊に送っている〔E〕。このように従三位昇叙に関わる一連の文書が、まとまって伝来しているのはまことに希有のことである。

なお惟豊は、翌天文14年5月28日阿蘇上宮の成満院・萬福院以下の一山衆徒にあてて、勅筆の心経を社納するので大切に保管するように、と指示する書状を送っている。紺紙金泥の般若心経とこの書状は現在阿蘇町の西厳殿寺に所蔵され、国指定の重要文化財とされている。

ところで惟豊は、その後天文18年には従二位に昇っている。本来従二位は右大臣・内大臣相当位であり、従三位は中納言相当位であって、いずれも公卿(今日の閣僚)の位である。このような高位が戦国時代には阿蘇氏のような地方豪族にまで与えられたのである。それは下剋上の世となり、荘園からの収入が途絶え、朝廷も貴族もひどい経済的困窮におちいっており、高位の官職や位階で権威づけをねらう地方の有力武士からの献金や斡旋料によって、辛うじて生活を維持するような状況であっ

たからである。惟豊の場合も、多額の禁裏修理料の献納の賞であった。おそらく広橋兼秀や烏丸光康も、相当の斡旋料を得たものと思われる。

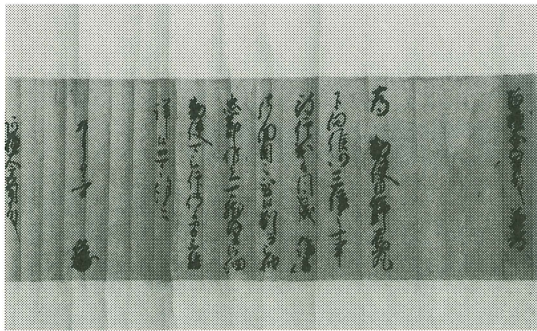
(くどう けいいち 文学部教授 国史学)



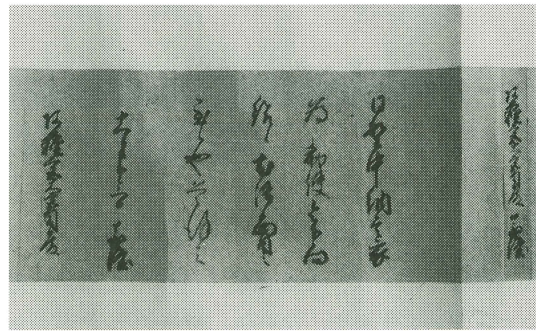
〔A〕 後奈良天皇諭旨(宿紙)
上階事所有 天憐也、禁中御修理方別而抽忠節者、重猶可被行恩省之由、
(賞)
繪命所候也、仍執達如件、
(天文十三年) (廣橋國光)
九月十六日 左中辨(花押)
(惟豊)
阿蘇宮大宮司館



〔B〕 後奈良天皇口宣案(宿紙)
(端裏書)
口宣案
(兼秀)
上郷 廣橋大納言
天文十三年九月十六日 宣旨
(阿蘇)
正四位下宇治惟豊宿祢
宣叙従三位
藏人頭左弁辨兼近江権介
(廣橋)
藤原國光奉



〔D〕 廣橋兼秀諭旨副状(切紙)
(折封ウハ書)
阿蘇大宮司殿 兼秀
(端裏切封)
「一一」
(光康)
爲 勅使日野烏丸下向候、仍三位之事被仰出候、同被成諭旨候、御面目之至候、別而被抽忠節候者、可然存候、巨細勅使可被仰傳候間、不能詳候、恐々謹言、
(天文十三年)
九月廿三日 (花押)
(惟豊)
阿蘇大宮司殿



〔E〕 大内義隆書状(切紙)
(折封ウハ書)
阿蘇大宮司殿 義隆
(端裏切封)
「一一」
(光康)
日野中納言家爲 勅使令下向給候、尤御面目之至候也、恐々謹言、
(天文十三年)
十一月十三日 義隆
(惟豊)
阿蘇宮大宮司殿

UNIX版OPACの開始について

図書館のOPACは、平成3年度より総合情報処理センターの汎用機にて提供してきましたが、総合情報処理センターの機器更新を機会に、図書館内に設置したWSをサーバとするUNIX版OPACを開発いたしました。すでに、3/16(木)より、学内に向けて公開しています。

UNIX版OPACの特徴を挙げると次のようになります。

a. 利用時間の延長

メンテナンス及びデータ更新の時間を除き、いつでもアクセスできます。(夜間、土日可)

b. 利用申請が不要、接続手順も簡単

課題番号の申請は必要とせず、学内LANであるKUIC研究教育用LANに接続しているパソコンならばすぐに利用できます。また複雑な接続手順もありません。

c. コマンドを知らなくても大丈夫

汎用機時代のOPACはコマンドでの検索でしたが、今回はメニューを作成しましたので簡単な操作で検索ができます。

d. メニューは日本語版、英語版の両方

「検索モード選択」で日本語か英語を選択できます。

e. 検索キーにローマ字を追加

日本語の資料で書名(誌名)・著者名を検索する場合、これまでは漢字・かな、もしくはカタカナでしたが、今回さらにローマ字が加わりました。これにより漢字変換を使用せずとも検索が可能になります。

f. ヘルプ画面を用意

検索キーの入力方法や、検索結果の表示方法について説明する画面を用意しました。画面中の“h”を選択すれば参照できます。

サービスを開始したばかりのUNIX版OPACですが、今後利用が増加するにつれ、サーバマシンのパワー不足による問題(レスポンスや同時接続台数の制限等)が懸念されます。メニューやヘルプ画面、データのさらなる充実も必要でしょう。これらにつきましては、今後改善を図る予定です。

課題も残るOPACではありますが、以前より使い易くなっていることは、使用されると実感していただ

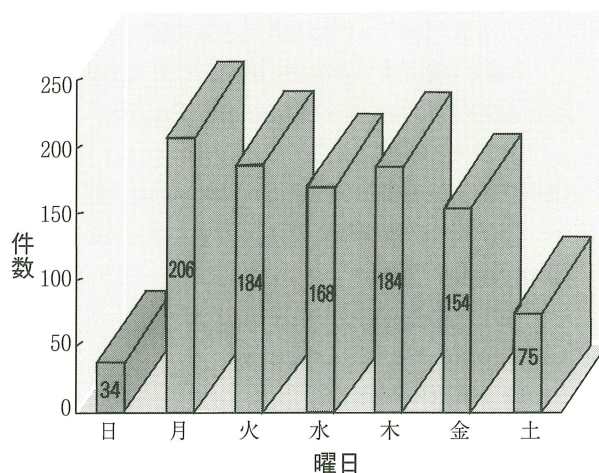
けるとと思います。利用者の方々の一層の利用を期待しています。

(OPACプロジェクト)

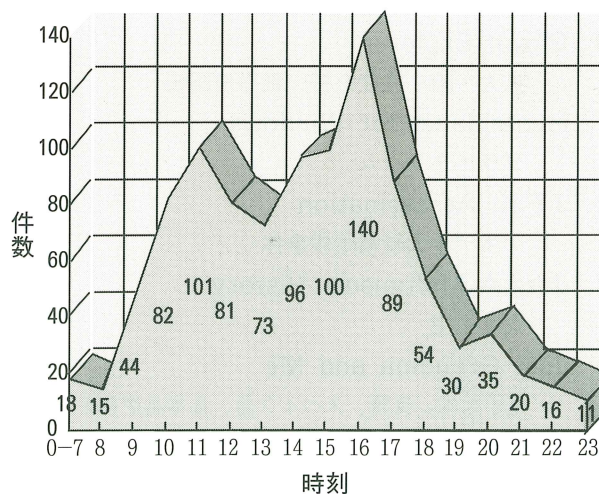
OPAC利用状況

(平成7年3月17日～5月7日)

曜日別利用件数



時刻別利用件数



CD-ROMソフトの種類が増えました!

これまでの中央館では、「朝日新聞全文記事情報H I A S K」や「学術雑誌総合目録」などのCD-ROMを利用していただいていたのですが、今回CD-ROMの種類を大幅に増やし、提供することになりました。(別表リスト参照)。これまでのソフトは、参考資料や、二次資料のものが中心でしたが、今回受入れた分は、美術や音楽、歴史、文学、動植物、天体などに関するもの、英会話の学習用など、知識を広げたり学習用に

使っていただくものが中心です。分野も広範囲にわたっていますので、興味のあるソフトがきっと見つかると思います。検索の費用は無料ですので、大いに利用してください。また、検索機も2台増設し、計4台になりました。利用場所はカウンター前のブラウジングコーナーです。その他、詳しいことにつきましては、カウンター参考係にお尋ね下さい。

(情報サービス課参考係)

- | | |
|--|---|
| 1 Adventures
世界の冒険旅行ガイド | 17 Microsoft Art Gallery
ロンドン・ナショナルギャラリーの絵画
2,000点 |
| 2 Alice
"アリス"をモチーフにした不思議の国。金子國義の絵と加藤和彦の音楽を庄野晴彦がCD-ROM化。 | 18 Microsoft Cinemania '95
映画情報 |
| 3 Annabel's Dream of Ancient Egypt
エジプトの歴史文化 | 19 Microsoft Dinosaurs
恐竜百科 |
| 4 CNN Time Capsule 100 Defining Moments 1994
CNNの映像を用いた100大ニュース | 20 Microsoft Encarta '95
マルチメディア百科事典 |
| 5 Composer Quest
西洋音楽史 | 21 Microsoft Musical Instruments
楽器のガイドブック |
| 6 Electronic Home Library
古今東西の古典文学 | 22 Multimedia Animals Encyclopedia
動物図鑑 |
| 7 Famous Faces
20世紀の著名人100人 | 23 Multimedia Audubon's Birds
鳥類図鑑 |
| 8 Fractal Ecstasy
フラクタル図形を楽しむソフト | 24 Multimedia Beethoven: The Ninth Symphony
音楽ソフト。ベートーベン |
| 9 GADGET
3次元CGで構成した冒険物語 | 25 Multimedia Mozart
音楽ソフト。モーツァルト |
| 10 Gloval Explorer
拡大・縮小機能を持つ世界地図帳 | 26 Multimedia Schubert
音楽ソフト。シューベルト |
| 11 Hyperplanet for Windows
プラネタリウム | 27 Multimedia Strauss
音楽ソフト。シュトラウス |
| 12 J.F.K. Assassination
ケネディ大統領暗殺事件 | 28 Multimedia Stravinsky
音楽ソフト。ストラビンスキー |
| 13 Jazz: A Multimedia History
ジャズ史 | 29 Multimedia World Histy
マルチメディア世界史 |
| 14 Just Grandma and Me
電子絵本。英語、スペイン語、日本語が使える | 30 NHKできごとFOR WINDOWS
NHK放送データベースを典拠に、政治・経済・社会全般にわたる戦後のおもなくできごとをマルチアクセスする。 |
| 15 L-ZONE
3Dソフトを使った冒険物語 | 31 National Parks of America
米国の国立公園のガイドブック |
| 16 MYST (日本語版)
奇妙な世界の探検物語 | |

- 32 ODYSSEY 1967-1972
アポロ計画について、NASAが提供するビデオ映像や写真を含め、豊富な資料を収録する。
- 33 Ocean Life 1:South Western Pacific
海洋生物図鑑(フィジー、トンガ、バナツ)
- 34 Ocean Life 2: Micronesia
海洋生物図鑑(ミクロネシア)
- 35 Ocean Life 3:Hawaiian Islands
海洋生物図鑑(ハワイ諸島)
- 36 Oceans Below
美しい海の世界をダイビング探検
- 37 PLANET HARMONY FOR WINDOWS
惑星の運行をシミュレート。操作性は自館などの数字の入力も含めてすべてマウス・オペレーション。
- 39 Quick English VI.5 日常会話 1
英会話練習用ソフト
- 40 Quick English VI.5 日常会話 2
英会話練習用ソフト
- 41 The Animals !
バーチャル動物園
- 42 The Days of Whales
クジラ、シャチ、イルカなどの海洋生物を中心に、海洋写真家の水口博他が撮影した800カット余りの写真を収めたCD-ROM
- 43 The Oxford English-Dictionary. 2nd ed.
The Oxford English-DictionaryのCD-ROM化
- 44 The Sleeping Beauty
童話「眠り姫」のマルチメディアブック
- 45 Time Almanac 1993
'89年から'93年末までの「タイム」誌を収録
- 46 World Beat:The Sights,Sounds and Video of World Music
世界の民族音楽
- 47 新潮文学倶楽部
「新潮日本文学辞典」と「新潮世界文学辞典」がこの1枚に収録。画期的なマルチメディア文学辞典である。
- 48 広辞苑 第4版
新村出編「広辞苑 第四版」のデータをEPWING規約に準拠して格納し、ワープロやパソコンで縦横に検索できるようにしたもの。
- 49 ヒロシマ・1945
ヒロシマ原爆の映像記録。約100コマの映像と日本語の音声による解説で約30分に構成されている。
- 50 CD-140万冊出版情報一戦後から現在まで一昭和20年から平成5年までに日本国内で刊行された商業出版物、官庁出版物、私家版を収録。

本学教官寄贈著書紹介

篠崎 榮教授(養・哲学)

美徳なき時代

A.マッキンタイア著 篠崎 榮訳
みすず書房 1993.8

ニュッサのグレゴリオス 雅歌講話

篠崎 榮 ほか訳
新世社 1991.2

キリスト教以前のイエス

アルバート・ノーラン著 篠崎 榮訳
新世社 1994.12

武内忠男名誉教授

宇宙から地球環境と生活を見る

武内忠男著

「地球環境」刊行会 1994.3

赤松秀岳助教授(法・民事法)

十九世紀ドイツ私法学の実像

熊本大学法学会叢書 3

赤松秀岳著

成文堂 1995.3

図書館委員の交替

平成7.3.31	退任	法学部	良永 彌太郎
〃	〃	医学部	吉永 秀
〃	〃	工学部	平井 一男
〃	〃	医療短大	平山 紀美子
平成7.4.1	就任	法学部	中村 直美
〃	〃	医学部	小川 尚
〃	〃	工学部	松尾 日出男
〃	〃	医療短大	松本 英世

人事異動

- 平成7.4.1 附属図書館事務部長
青山 弘
(東京工業大学附属図書館情報管理課長)
- 〃 情報サービス課参考係長
飯田 典子
(情報サービス課閲覧係長)
 - 〃 情報サービス課閲覧係長
北野 典子
(情報サービス課参考係)
 - 〃 情報サービス課閲覧係に採用
市原 慶子
 - 〃 医学部分館整理係に採用
江崎 美佳
- 平成7.3.31 定年退職
古閑 義信
(附属図書館事務部長)
- 〃 退職
森永 智子
(情報サービス課閲覧係)
 - 〃 退職
北里 多真美
(医学部分館整理係)

編集後記：先号の時は、神戸の大震災、今号はオーム真理教で大揺れの社会ですが、図書館では新しい部長を迎え、増築の雰囲気も一段と高まって来ています。医学部分館の24時間開館という数年前では考えられなかったことが実現し、社会の変化と共に図書館の変化を痛感させられています。

日誌 (平成7.1.1～4.30)

- 1.17 古典籍研修会
- 1.18 平成6年度国立大学附属図書館事務部長会議～19 (於長崎)
- 2.7 古典籍研修会
- 2.7 CD-ROMネットワークセミナー (於福岡)
- 2.15 文部省上田企画官ほか1名来館
- 2.21 古典籍研修会
- 2.23 附属図書館係長会議
- 2.24 平成6年度熊本県図書館職員研修会 (熊本県立図書館)
- 3.1 熊本県大学図書館協議会設立準備会 (本学開催)
- 3.2 地域講習会担当者連絡会議
～3 (於東京：学情)
- 3.16 ILLシステム地域講習会講師打合せ会議
～17 (於東京：学情)
- 3.22 附属図書館係長会議
- 4.4 附属図書館係長会議
- 4.17 第1回熊本県大学図書館協議会 (於熊本学園大学)
- 4.18 古典籍研修会
- 4.20 第25回九州地区国立大学図書館協議会 (於北九州)
- 4.21 第46回九州地区大学図書館協議会 (於北九州)

24時間図書館をめざして

本文でも触れていますが、医学部分館では昨年度末に「無人入退館システム」を導入し、5月1日から正式運用を開始しました。

本荘地区の研究者はこのシステムによって、早朝から深夜まで必要に応じた図書館の利用が可能になりました。

本システム導入にあたり尽力された関係各位に感謝いたします。

(ワーキンググループ24)

東光原一熊本大学附属図書館報一第11号

平成7年6月

編集発行 熊本大学附属図書館

〒860 熊本市黒髪2丁目40番1号

TEL (096) 342-2273

FAX (096) 345-9087